

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
 神奈川 碩心会 発行

58年11月現在 会員数  
 逗子地区 149名  
 葉山地区 293名  
 大船地区 66名  
 (合計) (508名)

58年11月号 (136号)  
 発行 者 萃  
 根 岸 岳 集  
 編 村 愛 岳  
 中 村 愛 岳

## 碩心会

### 会名の由来

何の道でもそうであるが、その道に入ったからにはその道の最高を極める事が終局の目的であらねばならず、吟道を博く又深く求め様と「碩心」と選び、大野孤山先生も我が意を得た名だと高く評価して下さい。

「碩心会」この名は、今は亡き恩師岳風先生も知って居られ将来を期待して下さい。又大野先生も衷心からその成長を望んで居られた。今、会長三井先生、師範根岸先生を中心に会員皆さんの吟道に対する御熱意により大きく発展した事は、名付親となった私の喜びは申すまでもなく、岳風先生、大野先生の御魂もさぞかし満足して下さい居る事でしょう。

〔以上は47年9月号月報松井岳洋先生述  
 碩心会発足当時の思い出から転載〕

私は碩心会の会名を選ぶに当り、吟道を通して、日々聖賢の教えに触れ、これを自己の修養の糧として、各自が立派な人格者とならんことを目的に、当時、今は亡き大野孤山先生の賛同を得て、命名しました。

〔以上は55年1月号報松井岳洋先生の  
 年頭の辞より転載〕

右により最近入会された方々にも碩心会の由来がお分りいただけたい事と思えます。

ところで碩心会という命名の碩心とは：漢和辞典をひらきますと、(碩)とは、大きい、盛んなという意味が書かれています。(碩人)：すぐれた人物・大人。(碩言)：立派な言葉。(碩学)：学問が広い。(碩量)：立派な人物・器量が大きい、等の例句があります。そこで(碩心)：とは、皆様意味がおわかりいただけたいと思います。この様な立派な会名をつけて下さった松井先生に心から敬服すると共に、各人が團結して名実共の碩心会たらんと努力したいものです。(以上56年2月号より転載)



### 59年度 碩心会 初吟会

とき・59年1月16日(月)ふりかえ休日  
 ところ・京急逗子ビーチセンター  
 当番、逗子A支部、真澄支部

## 吟での交り

一色B支部 加藤 朋風

守谷先生より吟のお誘いをうけて、加藤先生の教室に入会させていたゞき、早いものでもう十年になりました。

はじめの頃は海南行を五ヶ月も習いましたが、一向に上達しませんでした、何時止めようかとそればかりを考える木曜日でしたが、石の上にも三年：とか、そのうちに木曜日が待遠しい日となり、先生と皆さんにお会い出来るのが、なによりの心のやすらぎのひとつになりました。

七段までいたゞいておりますが、先生の熱心な指導にもむくえず、音痴の私には思う様に吟じられないままの今日この頃です。過ぎ去れば短い十年ですが、色々な事がありました。大勢の吟友の皆さんと知りあひ事ができましたが、又反面、人との交際のむずかしさも吟を通じて知りました。その都度、和を以って吟道に励むようにとの先生の言葉が痛切に感じられる事が幾度あったことでしょう。

嬉しかった思い出の一つには、吟を通じて三十年ぶりに故郷の幼な友達に会えたことがあります。何よりも嬉しかった思い出

として、吟との出会いをさせて下さった守谷先生には感謝の気持ちでいっぱいです。今の私にとって、吟とは心のよりどころであり、生甲斐であります。これからは吟の深さを学びつゝ、精進してゆきたいと思っています。

県本部主催

### ◎高段者・受講と審査（課題は前年度と同じ）

（七・八段）

受講 とき・58年12月18日(日)9時より  
ところ・平塚農業会館

審査 とき・59年2月19日(日)  
ところ・平塚農業会館

（皆伝以上）

受講 とき・59年1月8日(日)9時より  
ところ・平塚中央公民会館（予定）

審査 とき・59年3月4日(日)9時より  
ところ・平塚農業会館

◇ 受講料……千五百円（含昼食）

審査料……二千円（含昼食）

### ◎59年度 奥伝課題一部変更について

和歌「ひさかたの」が山岡鉄舟の「晴れてよし」になります。其の他は前年度と同じ。

県本部吟行会

## 全国大会参加記

一色B支部 行谷 佳風

第84回全国吟道大会は十月九日、ローカルカラーゆたかに、前回のお伊勢さん大会に次いで、今回はお遍路さん大会とでも云えましようか、四国の玄関口高松市で盛大に行われました。

会場の中央公民館は、体育館を兼ねた広大なホールで、いずれの大会も座席確保に一苦労するのが常ですが、其の点今回は大変ゆとりある会場でした。

大会は、当日定刻型の如く修礼、以下松井岳洋大会々長の御製謹詠を以って、セレモニーを修了、いよいよ第一部会員吟詠となり、三十題を過ぎたところで式典に移る。司会の声高らかに、会旗入場が宣せられるや、勇荘な君が代行進曲のリズムと、座席より湧きおこる手拍子相和する中を、挙手高く白手袋の先導者に導かれた各会旗は、二方面よりステージ目指して堂々入場、厳肅の中にも感激の一瞬でした。続いて大会実行委員長、大会々長挨拶、来賓祝辞、祝電披露と進んで式典終了、大会々長挨拶は、秋爽やかな此の日此の地高松の、立派な殿堂に於いて、我が岳風会第八十四回全国大

会が開催：を冒頭に特に人格の向上に努められたいと、最後を締めくくられました。全会員銘肝すべきでしょう。

プログラムは第二部から合吟コンクールへと、益々佳境に入り、地方大会優勝は、何故か地元チームのジंकウスは、会回も破られず、畠山みどりスタイルの新居浜岳風会に、名をなさしめました。

更に進んで第三部も後半になると、著名な先生方も続々登場、大鉄傘をゆるがさんばかりの熱吟も、松井先生の楠公吟詠にて掉尾を飾られ、来年三月九段会館で逢いましょうを、相言葉に万歳を三唱して、目出度く今大会の幕は閉られました。

余談になりますが、今大会を担当された高松岳風会は、先般碩心会の審査に当たられた安孫子岳晴先生が、高松在勤中創設された由、大会終了後幹部の方々が、宿舎に見えられ、神奈川県本部とは師弟の間柄、今後ともよろしくと挨拶されました。四国各会の協力もあったようですが、わずか百二十名の小会が受入れ母体となって、準備其他大会運営に当られた御苦労に、改めて敬意と謝意を禁じ得なかつたのは、参加者全員が共感された事でしよう。

さて常盤本部長率いるわが神奈川勢は、総数百六十名、いつもながらの大部隊で、

男女別、合同と二回出吟しましたが、前夜猛練習の甲斐あってか、大合吟は場内を圧し盛大な拍手を受け、一同大変気を良くしました。只残念なのはコンクールに出吟しなかつた事だ……とは常盤本部長の後日談でした。

又大会を前後して、金比羅宮、高松周辺、普通寺、道後、松山周辺と四国路の秋を満喫して、十一日全員無事羽田に降り立ち、本部長最後の挨拶で解散、各人それぞれの想いを胸に家路に着きました。

(母音)



- ア→ カ(ア)キ(イ)ク(ク)ケ(エ)コ(オ)
- イ→ サ(イ)シ(シ)ス(ス)セ(セ)ソ(ソ)
- ウ→ タ(ウ)チ(チ)ツ(ツ)テ(テ)ト(ト)
- エ→ ナ(エ)ニ(ニ)ヌ(ヌ)ネ(ネ)ノ(ノ)
- オ→ ハ(オ)ヒ(ヒ)フ(フ)ヘ(ヘ)ホ(ホ)
- カ(カ)キ(キ)ク(ク)ケ(ケ)コ(コ)
- キ(キ)ク(ク)ケ(ケ)コ(コ)
- ク(ク)ケ(ケ)コ(コ)
- ケ(ケ)コ(コ)
- コ(コ)

母音………

葉山町文化祭 詩吟詩舞の会終る

十一月三日文化の日、今年は一色小学校の体育館に於て行われました。広い会場も程よく埋まり、いつもながら、役員の方々の献身的なお骨折により、プロ番数167、参加者約230名を順調に、盛会に盛りあげ、終る事ができました。参加者の皆様の御協力ありがとうございました。

逗子市文化祭 詩吟詩舞発表会終る

十一月六日(日)各流派合同で行われ、合憎の雨が却って幸いしてか、満員盛況に終りました。吟歴の古い方も多くなつた故か、一段と吟技の向上、舞もひときわ華いだ感がありました。プロ番数133、参加者約290名欠番も少く、手ぎわよい進行により、スムーズに楽しい会を終る事ができました。

短歌

風早支部 長島 玉風  
 細き月 光り輝く星ひとつ  
 並びて夜の 天は華ぐ  
 禁漁の 立札のある川の辺に  
 覗き見すれば 川の面うごめく  
 老人の 植えし路傍のサルビアの  
 真紅に燃えて 揺れて咲きあり

秋の日のつれづれに

### ” 恩慈恵和 ”

絶好の日和に恵まれ、皆さんの一致協力で葉山町文化祭の一環である詩吟・詩舞の会も盛会裡に終り、ホッとした私は、こゝ二、三日、久しぶりにゆつたりとした気分をひたる事ができた。庭の片隅の露の花が咲き、燈籠の上には赤とんぼが止っている。深まる秋を泌々感じ、あんな事、こんな事、あの人、この人等々懐しく甦えてきます。我が家の隣りの広いお邸にひとり住んでいられた奥様の事が思い出される。大変気丈な方で大好きな犬を相手によく散歩される姿は名物といわれた程……その奥様からある日突然一通の葉書をいたゞいた。茅ヶ崎の太陽の郷なる老人ホームからだった。あんなに元気な方が、あんなに葉山を愛された方が何故？とびっくりし、又何ともいわれぬ寂しさが胸にこみあげてきた。その後二年ほど年賀状をいたゞいたが、そのあとブツツリと絶え心が痛む。

こちらにいられた頃、その奥様が時折、我が家の玄関を訪れ、正面にかゝっている「恩慈恵和」なる色紙に目をとめられ、いわれた言葉が忘れられない。「こちらの玄

関に入るとポットと温かい感じで、その色紙の文字がビツタリ……そしてお家の雰囲気も……」とよく言つて下さった。南向きの玄関は陽ざしがよく入り、私はこの位置をありがたいと思う。来られる方も、そして迎える側も温い気持ちで迎えられるから……。

松井先生書の「恩慈恵和」なる色紙は私も大好きで大切にしておきたいもの。何故なら、その言葉も素晴らしいが、又その書体がまさに言葉にびつたり……そしてここへ松井先生のあの慈顔が彷彿と浮んでくるからです。書は体を表す……といわれますが、私は見る度に、先生を思い心なごむのです。そして隣の奥様の事が思い出されるのです。

秋の陽ざしいっぱいの縁側で「恩慈恵和」の文字を、大切に胸にあたたためながら……つれづれなるままに。

(愛岳)

### 自家製のせき止め

せん切りにした大根をカップ一杯位用意し、水飴か蜂蜜を茶さじ四〜五杯入れます。一時間ほどで大根から成分が浸出、これを飲みます。

### (皆伝追贈)

長柄支部長・当会理事として、永年尽力された根岸治風さんは病氣療養中のところ、十月六日永眠され、霊前に皆伝免許(治岳)が追贈されました。御冥福を心からお祈りいたします。

### (理事・支部長の変更)

長柄支部長根岸治風さん死亡により、磯部誠風さんが碩心会理事・長柄支部長に

### (住居表示変更)

35 長野淑風 横須賀市秋谷二一五―二二  
240 松井正山 横須賀市秋谷二一七―二二

### (入会)

602 磯部和司 横浜市戸塚区和泉五三八七―四  
(大船B) 電〇四五―八〇二一六一―九

603 加藤玲子 横浜市磯子区洋光台五十五―五〇二  
(大船B) 電〇四五―八三三―二二二七

604 清水正男 横浜市南区永田北二一八―一  
(大船B) 電〇四五―七一一―八五八〇

605 関井倫子 葉山町一色一八六六  
(上原) 電〇四六八―七五―一四二四

(退会)

25 根岸治風(長柄)死亡

175 小川清山(上山口)

186 三鶯恵山(一色A)

364 窪田秀泉(堀内B)

379 窪田美泉(風早)死亡

425 家久高山(堀内D)

505 米田ヨ子(下山口)

526 岡田亮江(下山口)

541 鈴木利恵(堀内F)